

文化



「あいちトリエンナーレ2019」の会場前で、「表現の不自由展」の展示再開に抗議し座り込む若手アーティストの河村たかし市長(中央)11日午後、各県庁

国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」が間もなく閉幕を迎える。開幕3日目に中止となった展覧会内展覧会の「表現の不自由展・その後」は、様々な条件付きではあるが、約2か月ぶりに最後の1週間がそろそろ復活し、同時に全作品展が美観した。

言論への暴力

主催者は中止の理由を、脅迫によるものと説明している。カンパニーを撤収しようとした若手アーティストや電話が

メディア時評

山田 健太

〈10月〉

上のインパクトを社会に与えたことにはなるが、表現の自由に深い傷跡も残した。ここでは、中止とそれをめぐる事態がどういった意味を持つのかを、改めて考えおきたい。

表現の不自由展

多数寄せられ、安全確保が困難になったと、事務機能が麻痺したことが挙げられているが、まさにこれは暴力に言論が屈したということに他ならない。ただしこうした言論に対する暴力行為はもちろん今回が初めてではない。

立憲演説中の浅沼精次郎日本社会党委員長の暗殺事件に始まり、雑誌掲載の論稿が不敬であるとの理由で、社長宅を襲つ、嶋中風

言論封殺、政治家が容認 消極的加担の報道も

流無誣)事件など1980年代には思想や言論に対する対抗として表現者に向けられる事例が続いた。その後、80年代には記者襲撃事件が起る。暫く新聞阪神支局に赤報隊を名乗る男が侵入し、記者を殺傷した事件だ。さらには天皇に戦争責任があるとの発言をした長崎市長が銃で撃たれた。これらは明白に一定の思想を持った個人(団体)が特定表現者として

襲のメールやメッセージが、ネット上の呼びかけに呼応して送られ、またTwitterに拡散される状況にある。個々の市民が主体となって、封殺の状況を作り上げているという点だ。

異なる歴史観を排除

そして第2にこうした行動の根底にある、異質なものを排除する空気が広がった。より限定的に言えば、歴史修正主義に代表される、異なる歴史観を社会から完全に排除しようという

からかかるといふ観念にとまらざる、強制性自体も否定され、さらには慰安婦の存在自体も触れること自体がタブーの雰囲気を作られた。例えば、慰安婦を肯定することは、日本人を罵ることにたとえ、歴史観に、一定の社会的賛同を集める土地が、ここ20年で形成されてきているという点だ。

そして第3にこうした状況を政治家が積極的に後押ししていることがある。河村たかし市長に始まり、今回の歴史に反対する

らしてみると、今回の中止は、突然ではなく必然として起きたことであり、これを機にまたいつか起こるかもしれない。むしろ「成功体験」として、また同じことをしつくりと不安を感じる。

皮肉

歴史再開は、大きくその方があつたと思われる。これは、2000年代に入ってから明確になった「教育改革の成果」とも言えるだろう。教科書の検定基準や採択制度の変更の中で、ここ20年間で、日本国内の社会科学をはじめとする教育は大きな変化が続いている。例えば、慰安婦を扱う教科書はほぼ無誣となった。そして、単に軍が関与した

ひかり(水戸) 私はこの場所へ流れ... 美しい想い出... 未知の歓びが流れる... やました・さく... 8年より沖縄在住... ◇第1、第...

まだまだチャレンジ 落語家の笑福亭松喬さん

音信

終わり、地に足付けてやろうかな。まだまだチャ...

文学流星群

◆20◆

その和郎は同じ家で暮らした私の異母兄だが、兄が一時期、金子史夫さんの結社「海程」に参加して、ともあり、史夫さんとつとまらんに語せる取材も多...

語の士から生まれている韻律です。だから民謡なんかと重なるわけです」と話していた。人間探求派の柳田は自分の中の真実を追究した。...

とが分かる。戦後俳壇をリードし、最晩年、ハイムを著書起した史夫さん。自由な表現を求め続け、戦争反対を叫んだ史夫さんを代表する肉体的な「齣曲」...

山本周五郎作品が原作の「泥棒と君殿」は、松喬さんがアッパシした新作落語。自身で落語を創作するのは初めての経験という。創作が難しいのは「笑をどうまで入れるかのせ...